【１】令和５年度　教育調査の結果について

このことについては、本校の学校だより（『西宮だより』令和５年度２月号）において、保護者や学校運営協議会にお示ししました。令和６年２月２２日（木）には本校において学校関係者評価委員会が行われ、教育調査の分析に基づいた自己評価（教育活動の成果・課題、改善策等）について、学校側から委員の皆様に説明をしました。この度、【１】「教育調査の結果」と【２】「自己評価・学校関係者評価」につきまして、本ホームページ上で公表いたします。

１　生徒対象の教育調査の結果

教育調査（生徒対象）の結果（肯定率）＊**青字**は前年度の肯定率を上回ったもの　　回答率：91.3%(R3) 87.4%(R4) 90.0%(R5)

	質問内容	肯定率の推移		
		R3	R4	R5
1	先生は、クラスのみんなが分かり合い、協力し合えるようにしてくれている。	80.5%	85.6%	86.2%
2	授業では、学習を進める方法やペースを、自分で決めながら学んでいる。	63.1%	55.7%	55.6%
3	授業では、自分の得意なところを伸ばしたり、苦手なところを少なくしたりできるように、個別に教えてくれている。	43.9%	43.0%	41.2%
4	授業では、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学んでいる。	56.7%	49.8%	53.4%
5	授業では、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学んでいる。	79.9%	78.4%	81.7%
6	学校の授業によって、分かることやできることが増えている。	82.3%	85.6%	80.7%
7	先生は、授業で自分ができたことを誉めてくれたり、間違えたところを教えてくれたりしている。	71.0%	73.1%	74.6%
8	先生は、授業において電子黒板やデジタル教科書を活用している。	92.4%	91.1%	93.6%
9	先生は、今の授業で学習していることが、前の授業や今後の授業とどのようにつながっているか、教えてくれている。	74.4%	80.3%	76.2%
10	道徳の時間では、友達や家族、地域の人たち共によりよく生きることの大切さについて、みんなで話し合っている。	76.8%	78.0%	77.5%
11	先生は、健康な生活を送るために必要なことを教えてくれている。	74.4%	73.4%	74.9%
12	学校や家などで、１か月に本、新聞、雑誌、調べ物をするための資料などを読んだ。	－	80.7%	84.9%
13	地域の行事に参加している。	29.9%	23.9%	24.4%
14	先生は、地域の人たちと協力しながら、授業や学校行事をよりよくしてくれている。	42.1%	42.6%	46.9%
15	先生は、整理・整頓や清掃について、話をしたり考え（活動）させたりしています。	63.1%	58.4%	61.4%
16	先生は、体験的な活動や調べてみる学習に進んで取り組めるように指導をしてくれます。	68.6%	70.3%	67.2%
17	先生は、あいさつの励行やきまりを身に付け、学校生活が向上するよう指導をしてくれます。	77.7%	78.2%	83.0%
18	先生は、学級活動や生徒会活動・学校行事に進んで取り組めるように指導をしてくれます。	76.5%	80.2%	76.8%
19	先生は、将来の進路や生き方・働くことの意味について、先生や友達と相談したり、考えたりすることができるよう指導をしてくれます。	75.0%	73.3%	70.4%
20	先生は、いじめや仲間はずれなどがなく、相手の立場を考え、互いに協力し合える関係がつくれるように指導している。	73.2%	79.2%	76.5%
21	先生は、相談にのってくれたり、意見を尊重したり、励ましたりしてくれます。	65.5%	68.3%	75.6%
22	先生は、学校生活が充実し、楽しめるように指導してくれます。	72.3%	78.2%	78.5%
23	友達や先生に対して、気持ちの良いあいさつができている。	77.4%	80.2%	78.8%
24	学級・学年活動や生徒会活動・部活動を通して、自分の役割を果たし、自己の有用感や成就感を味わっている。	68.9%	73.3%	71.1%
25	ＩＣＴを活用した授業では、発言・発表の機会を増やし、生徒が互いに学び合う活動を多く取り入れている。	76.8%	84.2%	71.7%
26	小中連携における小学生と中学生の交流や、上級学校訪問などを通しての進路学習を進めることは、とても意義のあることである。	58.8%	69.3%	57.6%
27	中学生レスキュー隊や地域の祭礼・行事等でのボランティア活動へ積極的に参加している。	23.2%	37.6%	28.9%
28	先生方は、生徒の呼び方や生徒への声掛けの際の言葉遣いに、十分気を配っている。	71.3%	79.2%	73.3%

2　保護者対象の教育調査の結果

教育調査（保護者対象）の結果（肯定率）　　本校の回答率：49.0%

	質問内容	R５肯定率	
		本校	区全体
1	子どもは、授業で学ぶことにより、毎日の生活を、自分でよりよくするためにできることが増えている。	60.9%	54.7%
2	子どもは、学校でみんなと一緒に過ごすことによって、社会を、自分たちで変えるための知識や考え方が身に付いている。	70.4%	65.5%
3	子どもは、学校で障害者、外国人、性的マイノリティ等の人権に関する多様な価値観について学んでいる。	53.8%	49.7%
4	学校は、子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している。	46.7%	46.3%
5	連携する小・中学校による小中一貫教育（小・中学校の教員による協働授業、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	45.0%	40.6%
6	子どもは、児童・生徒１人１台専用のタブレット端末や学習ｅポータル、様々なデジタルコンテンツを、自分の学びや生活の必要に応じ、選択して活用している。	66.3%	64.7%
7	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。	30.2%	34.0%
8	学校は、いじめを絶対に許さないという雰囲気がある。	53.3%	43.2%
9	学校は、子どもの日常の学びの状況や評価方法について、参観、面談、HP、お便り等により充分提供している。	75.1%	62.8%
10	学校は、欠席等連絡、お便りの配布、アンケートの実施のオンライン化が進められている。	89.3%	79.0%
11	学校では、教職員、他の保護者、地域の方等とかかわり、子どもの成長や学校生活について考えたり話したりすることができている。	53.8%	43.9%
12	子どもが人間関係や自分自身の心の問題で悩んだとき、学校は、その解決を、きめ細かに支援してくれている。	36.1%	35.0%
13	学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている。	17.8%	27.8%
14	子どもは、学校生活を楽しんでいる。	75.1%	68.4%

3　学校運営協議会委員対象の教育調査の結果

教育調査（学校運営協議会委員対象）の結果（肯定率）＊青字は前年度の肯定率を上回ったもの　　回答率：90.0%(R4)　100%(R5)

	質問内容	肯定率の推移		R5区平均
		R4	R5	
1	子どもたちは、学ぶ楽しさを実感しながら、問いや課題を自分なりに立て、自分なりの方法で解決したり探究したりする力が育っている。	100.0%	90.0%	76.3%
2	子どもたちは、違いを認め合って共に生きる大切さを実感しながら、それぞれの得意を生かしたり、苦手を補い合ったりする力が育っている。	88.9%	80.0%	79.4%
3	教員は、全ての子どもが共に学ぶ中で自分らしく成長できるよう、それぞれの経験や専門性を生かし合っている。	88.9%	90.0%	77.9%
4	学校は、全ての子どもが自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭や地域、民間の団体や企業等と連携している。	100.0%	80.0%	76.3%
5	児童・生徒1人1台専用のタブレット端末や学習eポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちによって、その時々の学びや生活の必要に応じ、選択的に活用されている。	88.9%	90.0%	75.6%
6	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。	77.8%	50.0%	49.6%
7	学校では、校長を中心に、教育目標や目標達成の基本方針、指導の重点について家庭・地域と協議し、子どもたちの思いや願いを尊重する教育課程を編成している。	100.0%	100.0%	88.5%
8	学校では、授業や行事、学校生活の内容や進め方について、子どもたちが、学びや生活の主体であることを実感しながら、自分たちで考えたり教職員（学校関係者を含む）と話し合ったりしている。	100.0%	90.0%	80.8%

４ 教員対象の教育調査の結果

教育調査（教員対象）の結果（肯定率）　　本校の回答率：100%

	質問内容	Ｒ５肯定率	
		本校	区全体
1	授業では、普段の生活のことや社会での問題・話題になっていることを材料に学べるようにしている。	78.3%	75.8%
2	授業では、「授業を進めるのは、先生ではなく、児童・生徒である」と児童・生徒が感じられるようにしている。	60.9%	49.0%
3	授業では、児童・生徒が、自分の興味に基づいて問いや課題を立てて学べるようにしている。	52.2%	51.3%
4	授業では、児童・生徒が、挑戦や失敗を繰り返しながら、問いや課題の解決に取り組めるようにしている。	78.3%	77.5%
5	授業では、児童・生徒が、学習を進める方法やペースを自分で決めながら学べるようにしている。	56.5%	43.0%
6	授業では、児童・生徒一人ひとりの学びに合わせて、「わからない」を解決するための指導・支援をしている。	87.0%	69.5%
7	授業の中で出た意見や考えを、児童・生徒が自分の学びに生かせるようにしている。	78.3%	78.5%
8	授業では、児童・生徒が、自分が必要な時に、必要な仲間と協力しながら学べるようにしている。	91.3%	77.8%
9	学級の全体に関わることは、児童・生徒が自分たちで、全員の考えや気持ちを確かめながら決められるようにしている。	78.3%	72.8%
10	学校生活で児童・生徒が疑問に思ったことは、全校で話し合ったり、みんなで合意したりしながら変えられるようにしている。	91.3%	63.9%
11	学校の教育目標や目指す児童・生徒像、特色ある教育活動や教育課程などについて、学校評議会や学校運営協議会、学校関係者評価委員会で協議している。	69.6%	59.9%
12	児童・生徒が、自分の興味や関心に基づいて学んだり探究したりできるよう、家庭、地域、民間の団体や企業等と連携している。	69.6%	56.3%
13	連携する小・中学校による小中一貫教育（各教科等において、義務教育9年間を見据えた一貫性のある学習指導計画の作成、児童・生徒の交流など地域活動への参加等）が進められている。	65.2%	53.6%
14	教員である自分自身が身に付けたい資質・能力について、必要な学びが得られており、学び続けることができている。	82.6%	66.6%
15	子どもと向き合う時間が確保できている。	52.2%	45.4%
16	タイムマネジメントを意識して勤務できている。	43.5%	49.3%
17	勤務する学校は、働き方改革に意識的に取り組んでいる。	30.4%	41.7%
18	誇りややりがいをもって仕事を行うことができている。	82.6%	69.5%
19	ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を送ることができている。	39.1%	36.1%
20	スクール・サポート・スタッフの活用が負担軽減につながっている。	87.0%	75.5%
21	児童・生徒１人１台専用のタブレット端末や学習ｅポータル、様々なデジタルコンテンツは、子どもたちが学びや生活の必要に応じ、選択して活用している。	82.6%	69.2%
22	学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが、学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫を行っている。	65.2%	43.0%
23	授業や行事、学校生活全般において、その内容や進め方を、児童・生徒が自らを学びの主体であると実感しながら、自分たちで考えたり教職員及び学校関係者と話し合ったりできるようにしている。	87.0%	61.6%

【２】杉並区立西宮中学校　令和５年度　自己評価・学校関係者評価について

教育調査の結果に基づく自己評価と学校関係者評価委員会で出た各委員からの意見・感想及び質問等について、学校側の回答とともに「学校関係者評価の結果」としてまとめました。

１　自己評価（教育調査の分析）

（１）生徒対象

○　全２８項目のうち、１３項目で昨年の肯定率を上回った。

○　肯定率が５０％未満の項目は、「【質問３】の個別指導、【質問１３】の地域行事、【質問１４】の地域との協働、【質問２７】のボランティア活動」であった。

・「【質問３】個別指導」の肯定率は 41.2%であった。現在１人１台専用タブレット端末と電子黒板システムやデジタル教材等の活用が進み、学びの広がりや個に応じた学習環境が整いつつある。今後はさらにこれらの機器を活用しながら、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を図り、個に応じた学びを充実させていく。

・「【質問１３】地域行事」の肯定率は 24.4%、「【質問２７】ボランティア活動」の肯定率は 28.9%であった。今年度も有志生徒による「ホタル祭りクリーンボランティア」への参加やボランティア部による落ち葉掃きや区保健福祉部主催ふれあい運動会への参加などが実施できた。また、生徒会役員およびボランティア部の有志たちによる高二小の運動会支援は今年度新たに実施できたものである。さらに、杉並区中学生レスキュー隊の活動では、合同訓練や防災施設見学、西宮中学校震災救援所の役員の皆様の指導を受けての訓練等を行うことができた。今後はより多くの生徒が参加できる方法を工夫していきたい。

・「【質問１４】地域との協働」の肯定率は昨年度より 4.3 ポイント上昇したが 50%を下回った。本校の共育支援本部の尽力により、「いのちの学習」や「能楽ワークショップ」等において外部講師を招いた授業の実施等で多大な協力をいただいている。西宮中学校震災救援所の役員の皆様には防災教育講演会や第３学年対象の震災救援所訓練等において積極的に関わっていただいた。来年度も地域との協働によって、授業や学校行事の一層の充実を図るとともに、まだまだこうしたことが知られていない面もあるため、「【質問１３】地域行事」及び「【質問２７】ボランティア活動」とともに、生徒及び保護者への周知に努める。

（２）保護者対象

○　全１４項目のうち、区の肯定率の平均を上回った項目は１２項目である。

○　区の平均を下回った項目は「【質問７】多様な場や道具の選択」と「【質問１３】特別支援学校・学級と

の交流」の２つであった。また、肯定率が５０％未満の項目は、「【質問４】企業等と連携した学び、【質問５】小中一貫教育、【質問７】多様な場や道具の選択、【質問１２】きめ細やかな支援、【質問１３】特別支援学校・学級との交流」であった。なお、肯定率が低い原因の多くは否定的な回答が多いからではなく、回答の選択肢の「どちらともいえない」や「回答できない」と答えた割合が高いことにある。

・「【質問４】企業等と連携した学び」の肯定率は 46.7%であった（区平均 46.3%）。第２学年では７月に職場体験学習を３日間実施した。また、その事前学習として企業で働いている方２名を講師に迎え、働くことの意義や社会ではどのような人が必要とされているのかについて学ぶ機会をもつことができた。

・「【質問５】小中一貫教育」の肯定率は 45.0%であった（区平均 40.6%）。本校では連携する小学校との合同研修会を年４回実施した。この研修会は小学校との接続を重視した教育活動を推進する上で貴重な機会となっている。先述のとおり、１０月には生徒会役員およびボランティア部の有志たちによる高二小の運動会支援を実施した。小学生の中学校体験については、９月に高二小と松庵小の６年生による西宮中学校授業体験と部活動体験を実施した。また、１１月に実施した西宮冒険記では高二小・松庵小に高四小と久我山小も加えて、小学５・６年生による部活動体験を実施した。授業体験では小学生が熱心に中学校の授業に取り組む姿が見られ、部活動体験では中学生が小学生をリードしながら楽しい時間を共有した。この経験をとおして、小学生は中学生に憧れ、中学生は自己肯定感を高めるなど精神的に成長することができている。

・「【質問７】多様な場や道具の選択」の肯定率は 30.2%であった（区平均 34.0%）。学校内に生徒自らが学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりすることはとても意味があることだと考えている。現在、定期考査前には学校支援本部による自主学習の場「アフタースクールスタディ」を実施している。また、夏季休業中には自主学習教室や図書館の開放を行っている。さらに、再登校による部活動を実施する際には、住居が遠い生徒を対象に待機場所を設けている。

・「【質問１２】きめ細やかな支援」の肯定率は 36.1%であった（区平均 35.0%）。本校では普段の学校生活における教員による見守りに加え、ふれあい月間アンケートや教員とのおしゃべりウィーク、ＱＵテストなどを実施して生徒の理解に努め、様々な問題の未然防止・早期発見に努めている。また、校内で情報を共有し、スクールカウンセラーや関係機関とも連携を図りながら組織的に対応している。これらのことは重点項目として今後も継続して取り組んでいく。

・「【質問１３】特別支援教育」の肯定率は 17.8%であった（区平均 27.8%）。特別支援教育については、巡回の特別支援教室教員や済美教育センター及び特別支援教育課等を始めとする関係諸機関と連

携し、特別な支援が必要な生徒及び保護者には様々な情報を伝えているが、一般の生徒及び保護者にとっては情報に触れる機会が少ないと感じていることが考えられる。今後は情報提供の方法をさらに工夫する必要がある。

（３）学校運営協議会委員対象

○　ほとんどの共通質問で肯定率が 80%を上回り、高い評価をいただいた。

○　肯定率 80%を下回った項目は１つであった。

・「【質問６】多様な場や道具の選択」の肯定率は 50.0%であった（区平均 49.6%）。保護者の欄（【質問７】に対する分析）で述べた通り、これからも最大限の工夫と努力を重ねていきたい。

（４）教員対象

○　全２３項目のうち、区の肯定率の平均を上回った項目は２０項目である。

○　区の平均を下回った項目は「【質問７】意見や考えを学びに生かせるようにしている」、「【質問１６】タイムマネジメント」及び「【質問１７】働き方改革」の３点であった。

・「【質問７】意見や考えを学びに生かせるようにしている」の肯定率は 78.3%であった（区平均 78.5%）。主体的・対話的で深い学びの視点を通して教員が常に授業を改善していくことは非常に重要であり、今後も推進していく。この授業改善により、生徒がそれぞれの意見や考えをクラスの中で共有することで議論が深まり、様々な視点で物事を深く考えるきっかけを作ることができる。これは「杉並区教育ビジョン２０２２」にも示されている「対話を大切にする」視点に通ずるものである。本校における肯定率は決して低くはないものの、この意識をさらに高めていく必要がある。

・「【質問１６】タイムマネジメント」の肯定率は 43.5%（区平均 49.3%）、「【質問１７】働き方改革」の肯定率は 30.4%（区平均 41.7%）であった。教員が誇りや情熱そして使命感をもって職責を全うすることが、子どもたちの幸せにつながると私たちは確信し、どの教員も時間を惜しむことなく日々職務に邁進している。一方で、教員の長時間労働は看過できない問題である。本校では働き方改革を受け、「部活動活性化事業や部活動指導員の導入」や「採点システムの導入」及び「スクール・サポート・スタッフの活用」等により教員の負担を軽減する取組を行っている。また、「２０時完全退勤の呼びかけ」等により業務の優先順位を意識付けさせ、業務の効率化を図っている。これらの取組は重点課題として、今後も継続していく必要がある。

２　学校関係者評価

日　時：令和６年２月２２日（木）１７：００～１９：００

会　場：杉並区立西宮中学校２階図書館

【学校関係者評価の結果】 委員からの意見及び質問等

＜記号の説明＞　○：委員からの意見・質問　→：学校からの回答　●：出席者からの意見・感想等

○　保護者対象の質問項目１３番、「学校は、通常の学級や特別支援学校、特別支援学級の子どもが相互に交流したり、一緒に活動したりする機会をつくっている。」の肯定率が低いようだ。実際に子供たちは特別支援学校や特別支援学級との交流を行っているのか。

→　野球部では毎年都立中央ろう学校と交流試合を行っている。またバレーボール部などでも様々な大会で交流している。ボランティア部では毎年杉並区保健福祉部主催のふれあい運動会に参加している。このような取組は意味のあることであり、とても大切なことであると考えている。

固定の特別支援学級が設置されている学校や特別支援教室の拠点校などは、カリキュラムの中で交流や共同学習を行うことができるが、本校はそのような環境にはない。また、副籍の生徒も本校との交流を希望していない。しかしながら、障害者の理解は大変重要であると考え、例えば震災救援所の役員の皆様の協力のもと、生徒を対象にした車いす体験などを毎年行っている。来年度は年度当初に１学年生徒全員を対象とした、特別支援教室への理解を促すオリエンテーションを実施する予定である。

●　特別支援学級がある学校や、杉並区では例えば済美養護学校と大宮中学校は非常に近くにあるので、そのような環境にある学校は交流が活発に行えるが、西宮中は区の一番西側に位置しており、そのような学校と同じような交流は難しいと思う。西宮中の生徒は地域住民との交流などを活発に行っている。しかし、生徒自身が交流しているという認識が十分ではないのかもしれない。したがって、担任の先生が「今日はこのような取組を行った」といった生徒にとっての振り返りの時間をもつことが必要だと思う。

●　西宮中は条件が揃っていないので、日常的な交流はやむを得ないと思う。西宮中の野球部は定期的に都立中央ろう学校と練習試合や大会で交流を行っているが、保護者がよく応援に来てくれる。その中で生徒も保護者も交流をしている。野球部ではそのような取組ができているが、それを学校全体で行うのは実際には難しいところがあると思う。

●　西宮中のボランティア部は地域との交流を通して様々なことを経験している。そこに所属している生徒の家族は交流については知っていると思うが、それ以外の方にはなかなか伝わらないのが実情だと思う。

→　学校からの情報として、学校だよりや校長通信を通してこういった生徒たちの活動は伝えている。学校だよりについては紙ベースとホームページの両方で発信しているが、多くの方々へはなかなか伝わらないのかもしれない。今後も工夫と努力を重ねていきたい。

○　保護者対象の質問項目７番「学校の教室や校舎、敷地内には、子どもたち自らが学びや生活の必要に応じて選択的に活用できる多様な場を設けたり、様々な道具を備えたりする工夫がなされている。」について、具体的に何を指しているのかが分からないため回答しにくいと思った。「様々な道具を備えたりする工夫」とあるが、「様々な道具」とは何を指しているのか？

→　「場」の方は具体的に想像できると思うが、「道具」の方はあまりにも漠然としているので答えにくいと思う。「道具」については、例えば今は一人一台タブレットが貸与されているが、少し前までなら学習の一環で児童や生徒が調べ学習を行うときに、パソコンルームがあればそこに行ってパソコンを使って調べることができた。小学校ならば遊具があるので、児童が休み時間等に遊びたいと思ったら、そこで遊ぶこともできる。そういったものを「道具」として捉えている。

この質問については、中学校では「場」についてお考えいただく方が答えやすいと思う。「場」で言うなら、本校では学校支援本部が行っている放課後自習教室「アフタースクールスタディ」という学習する「場」がある。夏休みには図書館や教室で自主学習教室を開催している。また、部活動で再登校するのに時間がかかる生徒については図書館に待機させている。これも図書館という「場」を活用した取組の例である。

●　学校は多様な「場」の提供を行っているということがわかった。「道具」だとなかなか分からなかったが、「場」については分かった。

●　この教育調査は済美教育センターが作っていると思うが、保護者として回答するにあたって、学校によっては質問が答えにくかったり、その学校に適さない質問があったりしているように感じた。学校運営協議会の一員として、またＰＴＡの役員としてこれまで学校に深く関わってきたが、それでも答えにくいと感じるので、一般の保護者はなおさら答えにくいと感じているのではないだろうか。そのような答えにくい質問について、保護者は回答として「どちらでもない」や「わからない」を選んでしまうのではないだろうか。

●　学校は広報活動を行っているが、なかなか伝わらないことがある。西宮中における教育調査の結果は、全体としては区の平均よりも肯定率が高い項目が多く、前年度よりも数値が高まっている項目も多いので、学校全体としては校長先生を中心に教育活動が充実して行われていると判断して良いのではないかと思う。